

非
公
式
同
人
誌

文
豪
ス
ト
レ
イ
ド
ツ
グ
ス



ラスト・グラデーション

presented by 百戦錬磨
[グラデーション]

太宰治 × 中原中也

R18



グレート・ミュー

グレート・ショー

ストブリ後16歳～18歳～組合戦後22歳
学園とREASTは捏造妄想



沈む







はー…
…死ねなかった

ヤ
キヤ



目を覚ましたか



中也の部屋か



手前のせいで
着衣水泳が特技に
なっちまうぞ

それは大変だ

今後君に見つかる
状況での入水自殺は
控えるでしょう



まったく
忌々しい



今回の自殺を
邪魔されたことも

中也のせいで
“次”なんてものが
生じることも

中原中也という存在そのものが忌々しい

この莫迦といると死ねなくなる

僕にとって生きるという行為は——







自殺が失敗する度に
繰り返す



もう
何度目だろう



ほとんど
ルーティン
習慣のような
行為



それでもなお興奮するのだ



中がいい

はあ



僕はね



中也を抱くのは
嫌いじゃない





“死にたい”ことさえ
忘れてしまうほど



そして僕は
——云ってしまえば
頭が空っぽになるんだ

君を抱いていると

気持ち悦すぎる

快楽に支配されて
何も考えられなくなる



つまりこの瞬間、

僕たちは
“中原中也”
“太宰治”ではなく

何者でもない
存在になるんだ

“何者でもなくなる”

なんて甘美な
誘惑なんだろう

この頭脳も思考も

本能で
塗り潰してしまえば、

退屈から逃れられる

死ぬことも忘れ

この世界に
生きる意味も
判らないまま

——それは厭だ

何云ってやがんだ



異能が
あろうがなかろうが
俺は“中原中也”だ

そんで手前は
どこまでも
“太宰治”なんだよ



今死にたいことを
忘れるだ？

どうせまた
思い出したように
死のうとするん
だろうが

まあ
そうなん
だよ



捻じ曲がった
性根、

世話の
焼ける
死にたがり、

ムカつく
そのツラ、

何よりなあ



俺がセックスを
許すのは
太宰だけだ

君は単純だな

たとえばの
話をしよう

もし桜舞う平和な
学園生活で君と
出逢っていたら？

学生服を着た僕を
君は「太宰治」だと
思うかい？

何だ
その喩え話は？

んな平和な世界でも
手前は物騒なこと
考えるんだろ

そんな腹黒野郎は
間違いなく太宰治だ

もし反転した世界で、
僕が君を冷酷に
駒のように使い捨てる
上司だったら？

気に食わねえが、
俺をそんな風に
遣えるのは
手前しかいねえ

チャンス
機があれば
殺してやる

俺が
殺してやりてえ男は
間違いなく太宰治だ



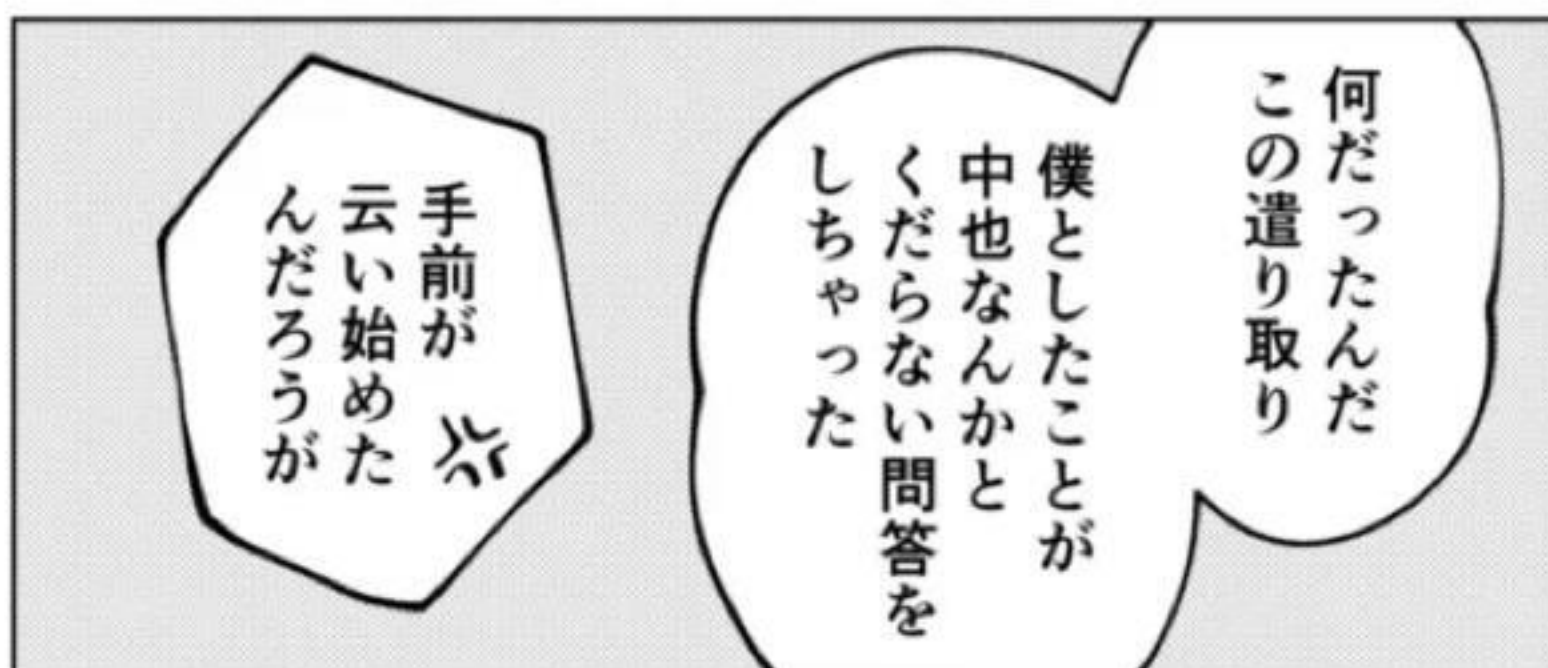
熱烈だね



——ならもし僕が
組織を裏切って
君の敵になったら？

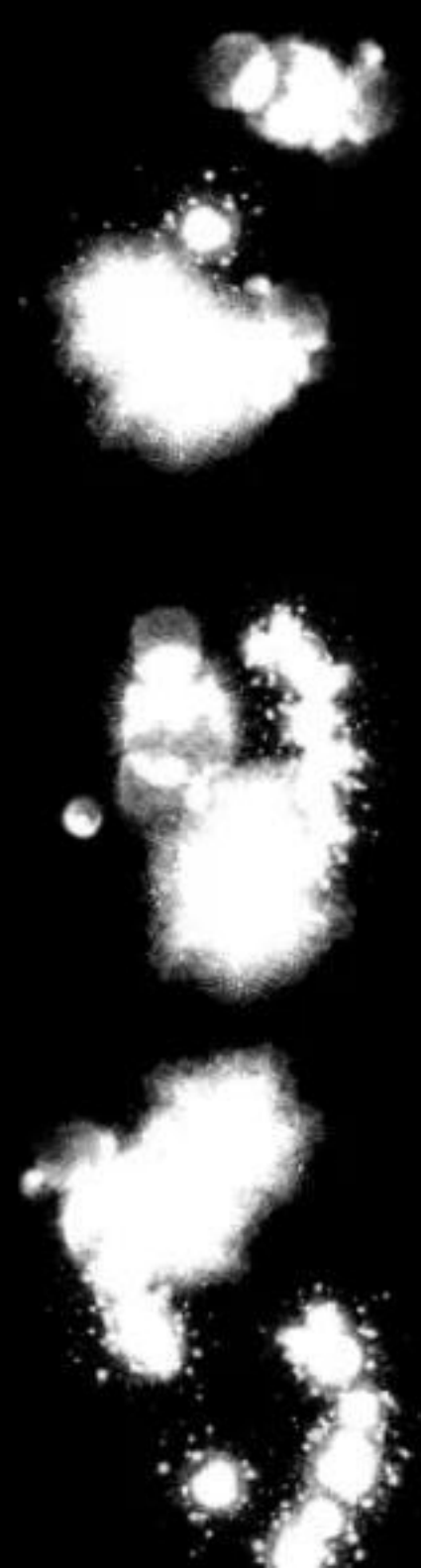


……
出逢ったときから
手前は俺にとって
天敵みてエなモンだ





…そうだね





太宰が離反した



あいつの友人が死んだのだと人伝てに訊いた



『僕が組織を裏切って、君の敵になったら？』

遅かれ早かれ
こんな日が来る気がしていた



それが今日だった
それだけの話だ

『つまりこの瞬間、僕たちは
“中原中也”“太宰治”ではなく、
何者でもない存在になるんだ』

そうだとして

あいつは
『何者でもない
存在になる』ことが
なくなる

この先あいつが
どんな生き方を
選ぶうが

あいつは
“太宰治”として死と
向き合い続けるだろう

生の本質を
見つけるために

それがあいつの
望むことなら

俺がやることは
一つだけだ



腐れ縁だったが
相棒の門出だ

最上の美酒で
送り出してやるぜ

せいぜい
死ぬんじゃないぞ

クソ太宰



四年後

—のはずだったのに

どうして
こうなっちゃった
んだ…？

どうしても何も
今夜は君から
誘ってきたんだろう

手前の女漁りが
目に余ったんだよ

その気なんか
ねえくせに

呑み屋で偶然会って
一緒に呑んでいた。

バ中を...

うちぞ
呑むぞ

だからって
家に招いてご馳走まで
してくれたという
わけかい？

...

組合との対決以降

何だかんだ太宰とは
頻繁に逢瀬を重ねている

今夜だって
逢ったのは
偶然だが

家に誘ったのは
この流れを
狙ったからだ

この相性の好き

ハマらねえ方が
無理があんだろ

「どうして」とは
そういうことじゃない

四年前に姿を消した
こいつがどうしてまた
俺の前に現れたのか



あの再会も共闘も
作戦(あるいは嫌がらせ)
だったってことは
判ってる

だがこいつの頭なら
俺に逢わない案だって
考えられた筈だ

なのに何故――



ねえ

何か他のこと
考えている
だろう？



莫ア迦

手前のことだよ





中也、
挿れるよ



：随分と熱っぽい
抱き方をするように
なったじゃねえか







中也

ミミ

は、あッ
太宰っ…

ニギハヤ





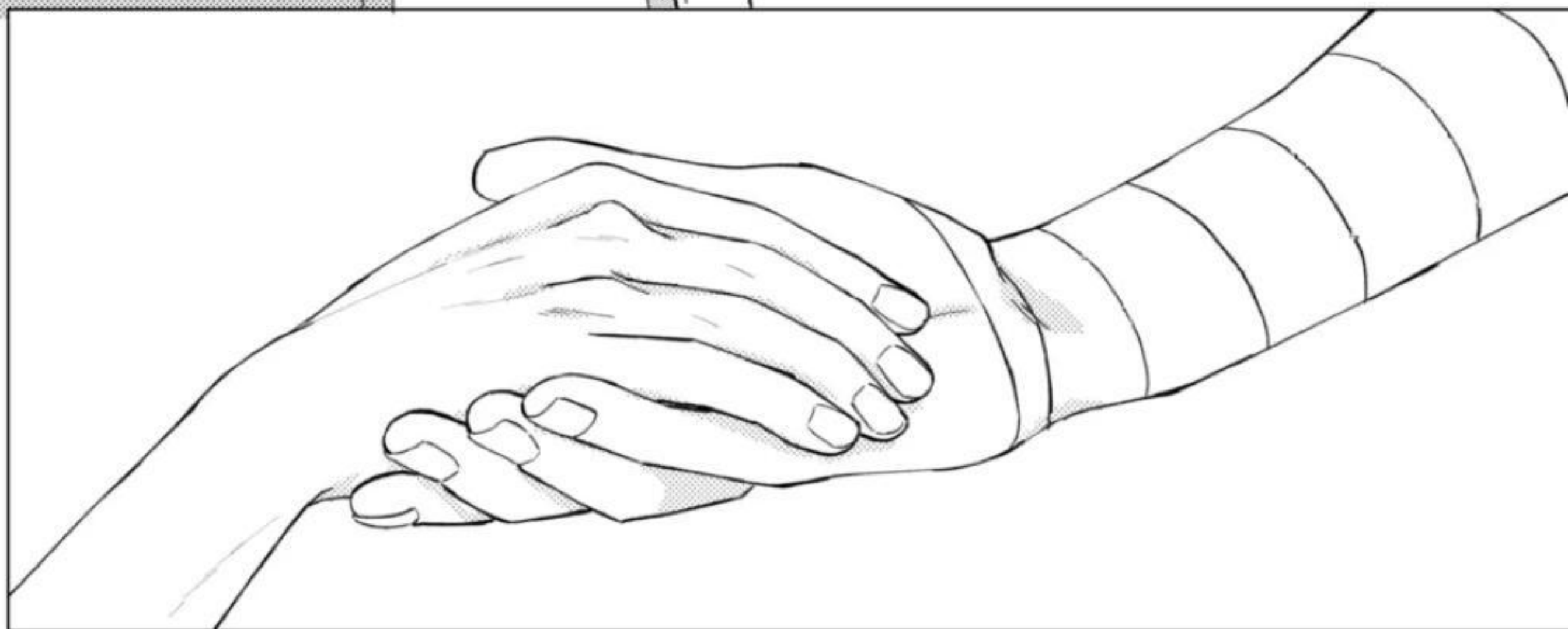
そして君は
“中原中也”だ



そう、
たとえ君が
神の獣に
呑み込まれても

理性を失くし
魔の眷属に
なっても

君は何度だって
私を見つけれ、
私たちは
手を取り合うのさ



何だそりゃあ？

また喩え話か？
予言か？

真逆

私達は
無力な人の子だ

だからこれは

“運命”の話だよ



こんにちは、メイメイと申します。

初めての太中本です。

今回の話を作りながら、ずっと「運命」の解釈を考え続けました。

太宰が何度も中也の手を、中也が太宰の手を取ったことは、
運命とかいうモンがあろうがなかろうが、
きっと二人の意思だと思います。

二人とも運命という不確かなものは笑い飛ばしそうで、
それでも「運命」なんて言葉を使ったのは、
自分たちの意思で互いの手を取ったことに対する
照れ隠しみたいなのもあるんちゃうかな…と思ってます。
運命の所為にしちゃってさ…！

十五歳の蘭堂戦での手の握り方が大好きなんですよ。
二人にとって手を取る行為が何か意味のあるものだとときめくなあ。
この先もそうであれ。

そんな感じで裏表紙は手を握らせました。
ここまでお読みいただきありがとうございました。

グラデーション
2024/6/30
印刷：ブロス様

百戦錬磨/メイメイ
kitsunegakon@gmail.com
<http://pixiv.me/kitsunegakon>
Twitter:@aisu_oishiii

※無断転載・ネットオークション・フリマアプリ厳禁



グラデーション

BUNGO STRAY DOGS

Osamu Dazai × Chuya Nakahara

unofficial fanbook #01

presented by 百戦錬磨

グラデーション

BUNGO STRAY DOGS
Osamu Dazai × Chuya Nakahara
unofficial fanbook #01
presented by 百戦錬磨

グラデーション

presented by 百戦錬磨
[グラデーション]

太宰治 × 中原中也

R18